

国道26号住吉橋は、昭和6年に架設された年代の古い橋であり、耐震性が不足しており、老朽化による損傷も進行していたため、平成29年度に橋梁架替事業として事業化しました。

＜工事着手前＞

住吉橋 側面全景(上流側より)



フェニックス通り（日本の道100選）



床版（損傷状況）



橋脚（腐食状況）



国道26号住吉橋の歴史



【拡大図】



【初代は1793年架設】

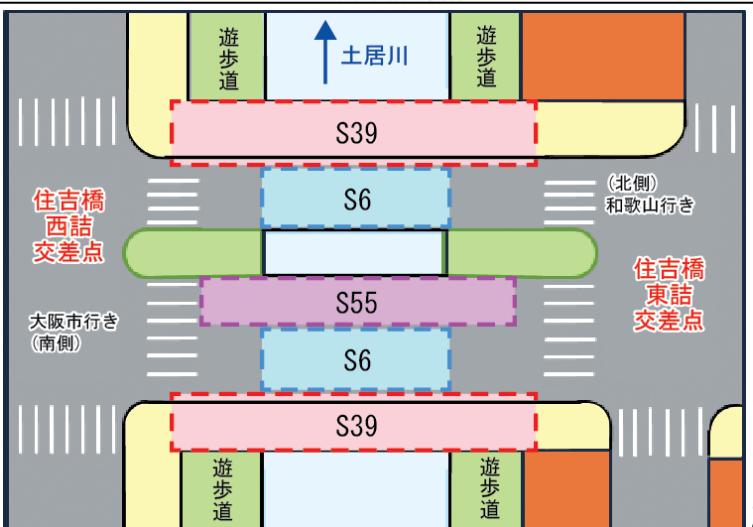
住吉に至る橋という
意味（諸説あり）

出典:堺市立図書館



【参考】

昭和30年頃の住吉橋(堺鉄建側からサンプラザ方向)

出典:「写真アルバム 堺市の昭和」(樹林舎 刊)より
※掲載承諾済

寛政5年(1793年)	架設(初代)
昭和6年(1931年)	架設(二代目)
昭和39年(1964年)	歩道部(上下流)を拡幅
昭和55年(1980年)	大阪市行き車道部を拡幅
平成29年(2017年)	橋梁架替を事業化

耐震対策
～国道26号住吉橋架替～

住吉橋架替工事を進めてきましたが、令和7年3月17日に完成しました。

今回の架替工事完了により、老朽化による損傷が無くなります。また、必要な耐震性能が確保され、大規模災害発生時においても「広域緊急交通路」としての信頼性向上が期待されます。

令和7年度は、カナリーヤシ植樹等の周辺整備工事を推進します。

＜南側車線の橋梁工事の流れ＞

①橋梁上部工架設工事



②床版コンクリート工事



③道路交通切り回し工事



大阪市側から住吉橋を望む



全景写真



令和7年3月17日完成

住吉橋

現時点の橋梁の耐震性を診断し、対策が必要となった場合、橋脚の補強や落橋を防止する装置を設置するなどの対策を実施します。

■落橋防止と耐震補強 (国道43号大和田高架橋耐震対策)

現況



対策イメージ



主な事例

■国道43号大和田高架橋耐震対策（事業中）

おお わ だ こ う か き ょ う

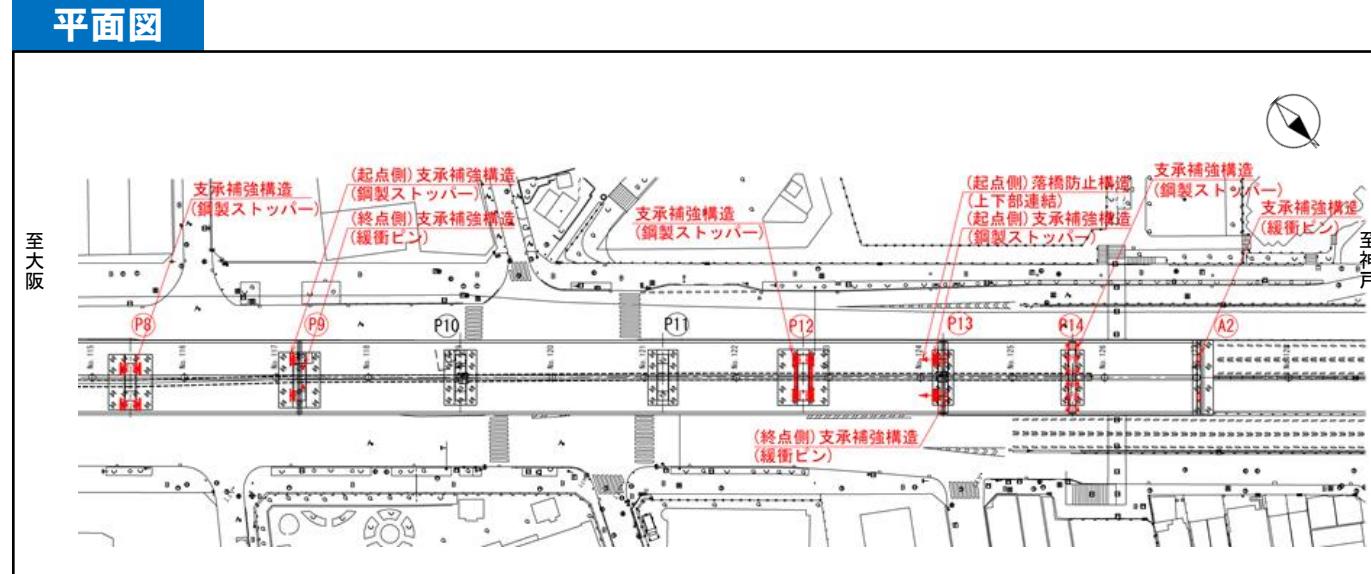
一般国道43号は、大阪府大阪市西成区を起点とし兵庫県神戸市灘区に至る全長約30kmの主要幹線道路であり、第一次緊急輸送道路に指定されています。

大和田高架橋（大阪市西淀川区大野地区～出来島地区）に落橋防止装置工等の耐震対策を実施することで、大阪市西淀川区の緊急輸送ルートが強化されます。

位置図



平面図



諸元等

- 事業区間：大阪府大阪市西淀川区
大野～出来島
- 延長：0.54km

津波や洪水からの緊急避難場所を確保するため、橋梁歩道部等の耐震対策を行い、各自治体が各橋梁歩道部等を緊急避難場所として指定しました。

主な事例

■ 安治川大橋及び正蓮寺川橋耐震対策

— ■ 位置図 —



～指定緊急避難場所とは～

津波、洪水等における危険が切迫した状況において、住民等の生命の安全の確保を目的として住民等が緊急に避難する施設または場所をいいます。

国（大阪国道事務所）

橋梁歩道部への接続階段の耐震化を実施



写真⑤ 落橋防止構造設置

自治体（大阪市）

津波災害時の避難施設として地域の住民・就労者に周知



大阪市
つなみ ひなん
津波避難ビル
Tsunami Evacuation Bldg.
海嘯避難ビル/海災対応ビル
避難可能時間 「24時間」

－津波避難ビル一覧表（此花区）【イメージ】－

地域住民



－自主的な避難訓練の状況－

